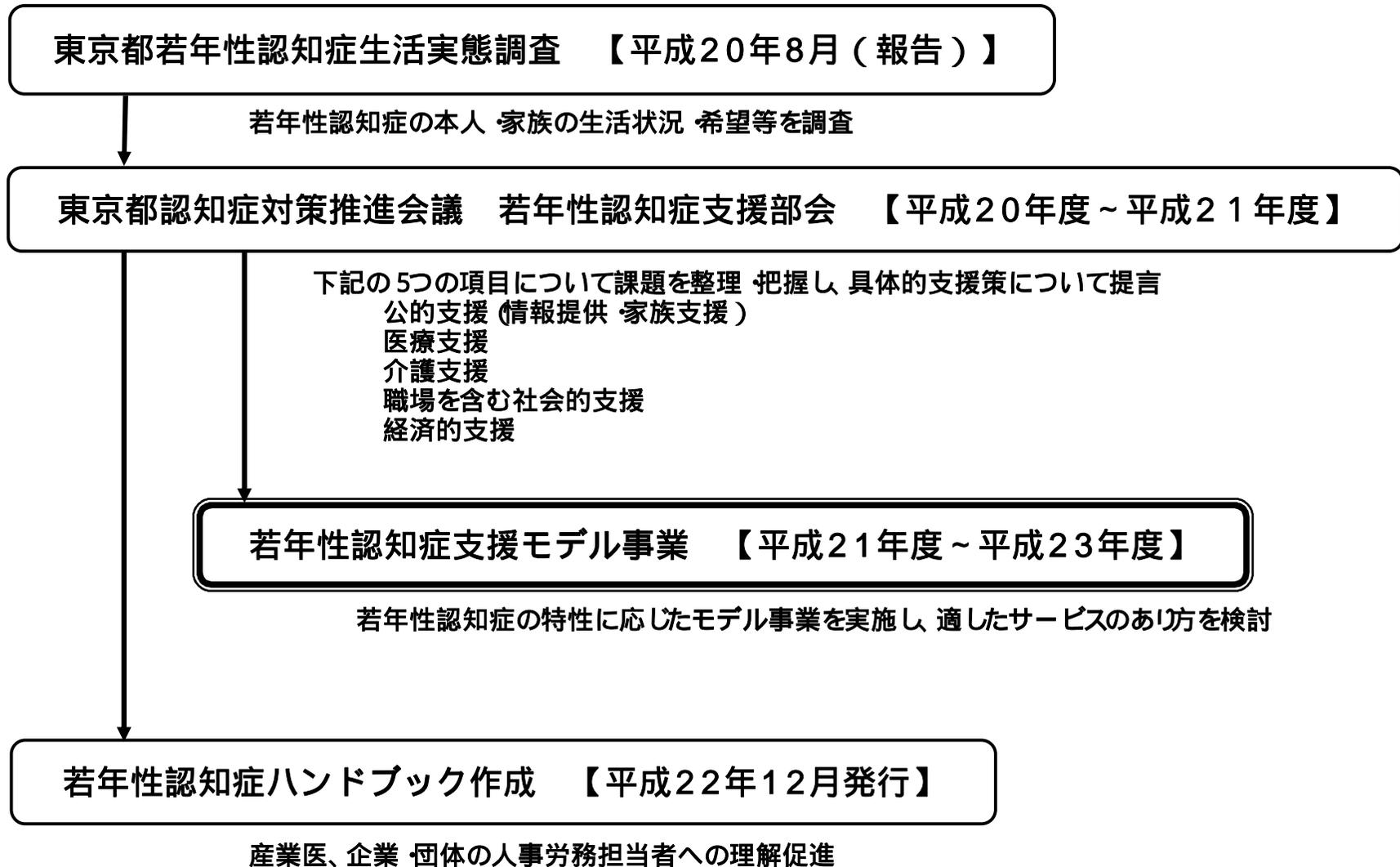


東京都の若年性認知症対策

資料 2 - 1



若年性認知症支援モデル事業概要

	モデル事業実施前		課題	モデル事業の内容	
	状況	問題点		目的	具体的方法
なぎさ 和楽苑 (社会福 祉法人 東京栄 和会)	現在のデイサービスで展 開してきた高齢者プログラ ムが馴染まない。 本人が社会的役割を急 に喪失してしまう戸惑い	若年性認知症の人が馴染 めるサービスが少ない	特別養護老人ホーム併設の「若年 性認知症専門デイサービス」にお いて、専用のプログラムと特別養 護老人ホームの機能を活用した各 専門職のサポート体制により若年 性認知症の人を支援する。	1)利用者の特性を考慮したプログ ラムを開発する。 2)将来的に介護保険事業枠内での 実施を前提としたサービス提供 のプロセス及び介護給付や人員 配置のシミュレーションを行う	担当スタッフと相談しながら組み 立てる「フリースタイル」を基本とし た、就労型活動及び生きがい活動 を提供する。
N P O法人 いき いき福 祉ネッ トワー クセン ター	退職し、閉じこもってい る。 主介護者の78%がうつ 状態 相談窓口がわからない	本人や家族が総合的に 相談できる窓口がない 支援を行う側に知識・ノウ ハウが少なく対応力が不十分	支援コーディネーターを設置し、下 記の機能を促進する。 医療・介護・福祉・障害福祉・就 労行政等の多岐に渡る支援制度 の総合相談窓口としてのワンス トップ機能 医療機関・ケアマネジャー・介護 保険事業所・各行政窓口等との連 絡調整、情報提供、手続等の連携	1)相談・社会資源を利用できない 理由を明らかにする 仮説 介護者の疲労の原因は 専門的になかつ身近な相談者が不 在によるのではないか 2)若年性認知症特有のマネジメ ント方法のモデルを作る 仮説 高齢者と異なるマネジメ ント手法が必要なのではないか 3)マネジメント支援モデルの普 及・啓発を行う 仮説 地域にある既存相談窓 口での対応が必要ではないか	1)マネジメント支援の期間は1年 間とし、開始時・中間・1年後に面 談・調査・担当者会議等により、当 事者・家族の状況を把握しながら、 マネジメントを実施する。 2)当事者・家族の状況やニーズな どを記載した「連携シート」を有効 に活用することにより、各関係機 関との情報共有、円滑な支援の連 携を図る。